

大田市立第二中学校PTAの実践（1年次終了）

1 大田市立第二中学校PTA（会員数202名）の特徴

校区は大田市の海辺にある地域が大半を占めている。保護者は、子どもの意見や考えを尊重し、子どものために行動する姿勢が多く見られる。

2 特色ある取組

（1）取組の概要（ねらい）

家庭、地域、学校が連携し、子どもと大人が共に人権について考え、人権意識の高揚と実践力の向上をめざすPTA活動を行う。

（2）取組の詳細

①PTA子育て交流会

（みんなで気楽にしゃべろっカフェ）

ア ねらい ピラティスを通して心身のリフレッシュを図るとともに、その後の意見交換会では、子育ての悩みを共有し合い、互いに励まし合えるような関係づくりをめざす。

イ 期 日 10月19日（土）

ウ 講 師 FRP ベーシックインストラクター
伊藤 麻里子さん

エ 内 容 ピラティス体験、意見交換会



②子どもへのメッセージの取組

ア ねらい 学校行事での子どもの活動の様子を見て感じた親の思いをメッセージとして子どもに伝えることで、子どもたちの意欲や自己肯定感の向上を図る。



- イ 期 日 9月26日(木): 体育祭
10月26日(土): 合唱コンクール
- ウ 内 容 体育祭や文化祭の準備活動期間前後に、生徒を励ますメッセージを保護が書き、教室前や昇降口など生徒がよく目にする場所に掲示し、生徒のやる気や自己肯定感を高める。



③ P T A 講演会

- ア ねらい 当事者の話を、保護者、生徒、職員と一緒に聞き、LGBTQ+について身近な課題としてとらえ、差別や偏見のない社会について考える。

イ 期 日 2月2日(日)

ウ 講 師 佐藤 みどりさん

- エ 内 容 県内で活躍されている LGBTQ+の当事者を招き、保護者、生徒、職員と一緒に講演を聴いた。



3 取組を終えて(成果と課題)

子どもへのメッセージの取組や同じ講演会を聴くことを通して、家庭における親子の会話が増えるよう工夫した。体育祭でも合唱コンクールでも、当日だけでなく事前事後にも子どもを応援している保護者の思いが伝わるメッセージがあり、子どもたちも喜んでいた。これらを通して、子どもたちの自己肯定感や達成感が高まったのではないかと感じている。

課題としては、メッセージ数にしても講演会への参加人数にしても、期待していた数には届かなかった。保護者へのアピールが十分ではなかったと考える。